

第1回 武雄市人口減少対策会議 会議録

日時：令和7年7月25日（金）

13：30～16：00

場所：災害対策本部室

<出席委員（敬称略）>

深町（武雄市商工会）、江口（武雄市観光協会）、長澤（佐賀女子短期大学）、山口（九州大学）、中島（武雄金融協会）、田栗（連合佐賀南部地域協議会）、小杉（ケーブルワン）、土井（司法書士）、坂口（区長会）、大庭（共同参画ネットワークたけお）、向井（川内地区棚田保存協議会）、山崎（地域おこし協力隊）、庄司（地域おこし協力隊）、一ノ瀬（かんころの会）、上河（武雄公共職業安定所）、庭木副市長

※欠席：梶川（武雄商工会議所）、藤本（武雄青年会議所）、中島（佐賀県農業協同組合）、矢野（武雄市スマートシティ協議会）、永松（市民団体）、吉村（佐賀県さが創生推進課）

<事務局>

企画政策課（松尾部長、小柳課長、筒井係長、石永、村山）

1 開会【小柳課長】

ご多忙の中、ご出席ありがとうございます。只今から第1回武雄市人口減少対策会議を開催します。

はじめに、本会議はこれまで「武雄市まち・ひと・しごと創生懇話会」として開催しておりましたが、今回から「武雄市人口減少対策会議」と名称を改め開催することとなりました。

この件について、報告事項として担当より内容等の説明を行います。

2 報告事項

担当より概要説明。委員の紹介、委嘱状交付、設置要綱について説明。

会長選出【事務局：小柳課長】

ここで、要綱に従って本会議の会長の選出を行います。

武雄市人口減少対策会議設置要綱第3条第2項によりまして、委員の互選により決

定する事となっておりますが、事務局より提案させて頂くという形でもよろしいでしょうか。

(委員：異議なし)

それでは事務局案としまして、庭木 淳 副市長を会長に推薦させていただきますがよろしいでしょうか。

(委員：異議なし)

委員の皆さまからの承認を得られましたので、庭木 淳 副市長を会長と決定いたします。

3 会長あいさつ【庭木副市長】

「武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、武雄市の施策の基本的方向、具体的な施策を取りまとめた計画として平成 27 年の第 1 期より策定され、武雄市の最上位計画と位置づけられている。

これまで開催してきた「武雄市まち・ひと・しごと創生懇話会」では、様々な分野の委員の皆さまにご出席いただき、施策の検討及び効果検証に関して多くの意見を頂いてきた。これらにより「第 2 期総合戦略」で掲げた目標に対して成果が得られたことについて、この場をお借りして感謝申し上げたい。

さらに今年度から令和 11 年度までの期間を「第 3 期」として、新たに総合戦略を策定した。策定にあたって、委員や市民の皆さまの意見から現状把握に努め、人口、経済、地域社会の課題に対する取組みをまとめている。本日は事務局より委員の皆さまに対しその内容の説明を行っていただきたい。

また先ほど事務局から説明された通り、今回から「武雄市人口減少対策会議」と名称を新たに開催することとなった。少子高齢化及び人口問題が地域経済や地域社会に与える影響は大きく、避けては通れない状況に対し武雄市がどう立ち向かっていくべきか、ここにいる委員の皆さまのアイデアを頂きたいと思っている。

本日はどうか皆さまの忌憚のないご意見及び助言を賜りますようお願いする。

4 議題

(1) 武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

①第 2 期総合戦略 (R2～R6) の検証

事務局より概要説明。

②第 3 期総合戦略 (R7～R11) の説明

○質問 ●提言・意見

(委員A)

○1 目標について市民総所得 10%アップとなっている。第2期までは市民所得 10%となっていたが、今回表現を変えた理由は何か。

[スター戦略本編 6 ページ]

○2 東川登町に造成中の工業団地について、整備の進捗状況を教えてほしい。

○3 基本目標①に記載されている地域防災リーダーとはどういった方なのか。

[スター戦略本編 10 ページ]

○4 基本目標②の中で地域通貨を活用した地域内経済循環の促進とあるが、たけおペイのダウンロード数はどうか。

[スター戦略本編 12 ページ]

○5 基本目標③で学習意欲が高い児童の数はどのように算出しているのか。

[スター戦略本編 14 ページ]

⇒事務局)

1 従来は、「市町民経済計算の概要」から1人あたりの市民所得を計上していた。この手法では3年のタイムラグがあった。これを解消するため、今後「課税状況調べ」をもとに市民所得を計上することに伴い、市民所得という表現では適さないため、市民総所得という表現に変更している。

2 大雨により今年度のり面崩壊に伴う工事をしている。来年度(令和8年度)から分譲開始予定。

3 防災に関する意識向上、知識・技能習得を目的として開催されている佐賀県地域防災リーダー養成講座がある。現在、市内では区長、婦人会、消防団ほか一般市民の方など70名が受講され、活躍されている。

4 ダウンロード数は16700件(令和7年度時点)。

プレミアム商品券ほか市民活動や、市主催で開催するイベント参加者へ付与するなどの運用を考えている。今後活用を増やし、ダウンロード数を伸ばしていきたいと考えている。

5 市で実施しているリーディングDX事業でアンケートを取っている。アンケート項目のうち「課題解決に向け、自ら主体的に取り組めた」と回答した児童生徒の割合を計上する。

(委員B)

○観光客として訪日される方への支援と市民として居住する外国人への支援は必要とされるものが異なると思われるが、ヒアリングを行ったか。

⇒事務局)

- ・在住者に対するヒアリングは行っていない。
- ・なお、武雄市の在留外国人数は 350 名、内訳はアジア系、技能実習生が多数である。多くは市内企業で働いていると考えられる。
[人口ビジョン資料編 8 ページ～10 ページ]
- ・外国人にやさしいまちかと言われるとまだ課題はあると認識している。今年度から CIR (国際交流員) を招き、市内の外国人の相談事など対応していただく。

(委員 C)

- 移住相談件数が KPI に設定されているが、令和 5 年度において相談数は多いものの定住につながっていないような数値になっている。定住世帯数を KPI に設定した方が、より KPI としてふさわしいのではないか。
[スター戦略本編 18 ページ]
- 基本目標④具体的施策(3)で市の審議会・委員会等委員への女性の参画率を KPI に設定されているが、内容として多文化共生の要素も含まれている。女性参画率の KPI では多文化共生を達成したという見方はできないのではないか。
[スター戦略 18 ページ]

⇒事務局)

- ・定住世帯数が KPI として最もふさわしいと思われるが、市の補助金を受けて転入された方以外の把握が難しく、実数がかめられないため移住相談件数を設定している。
- ・多様なつながりの達成状況を見るための KPI については他にもふさわしいものがないか検証したい。具体的事業の中の各事業の効果をみながら事業を推進していきたい。

(2) 武雄市における地域課題について

市内各町の将来人口推計について説明。

[人口ビジョン (資料編) 33 ページ～41 ページ]

(委員 D)

- 高校卒業後の転出数が $1/4 \sim 1/5$ 程度にとどまっているとある。将来人口の目標 4.0 万人は、この高校卒業後の転出超過を踏まえての推計か。
[人口ビジョン (資料編) 28 ページ～30 ページ]

⇒事務局)

- ・社人研推計に基づき、合計特殊出生率が 2035 年に 2.07 となると仮定した。これは人口置

換水準といわれるもので、人口が長期的に一定となる出生の水準である。

人口移動については、人口移動率が徐々に縮小していくと仮定して推計している。

- ・なお、高校卒業後減少する要因として、進学・就職などさまざまな理由で出ていかざるを得ないことが考えられる。その後、少しずつプラスに転じており、子育て世代として戻ってきているのではないかと推察される。

[人口ビジョン（資料編）P18]

（委員E）

- 令和3年、元年、さらには平成2年にも水害に見舞われている。

北方町では床上 70～80 センチまで浸水したようなところは空き家や更地となっている。高齢者が多く、資金面から解体しようにも困難である。

以前は中学校の生徒数も多かったが今は少ない。炭鉱業の衰退以降、自然減によらず、水害による人口減少が課題である。

治水対策は進められているが、新しく家を建てて住もうという人はなかなかいない。かさ上げするにもお金がかかる。

核家族が増えているので世帯数は増えているが、人口は減少している。空き家となった家では草木が生い茂っているところもあり、通学路に面している分は追いかぶさっているところのみ剪定しているが、敷地内まではどうにもできない。行政で対策を考えてほしい。総合戦略の中で、北方町の今後の方向性として「国道34号の利便性を活かした～」とあるが、バイパスが通ると旧道は活気が失われてしまう。

何につけてもお金がかかる。行政の力添え、何より住民との対話をお願いする。

（委員F）

- 西川登町で高齢者の集まる場としてかんころの会を運営している。

7年前に始めた当時と比較して、人口は300人ほど減少しているが、高齢者人口は変わらない。高齢化率の高い町をどうするか考えてほしい。

団塊世代のピークとなる2025年を見越して、地域包括ケアの仕組みは考えられたものと思う。安定した交付金や助成金等の仕組みを検討いただきたい。

（委員G）

- 企業の話によると高校卒業後の求人が集まらないとのこと。

求人数は増えているものの、求人を出しても人が集まらないのでは意味がない。大手企業へ持っていかれてしまう。

地元企業が条件を良くして、地元の若者から就職先として選んでもらえるように行政の支援策が必要。

(委員H)

- 地元企業の就職率が悪い。

地元に残ったとして楽しみがある人、楽しいと思える人は多くない。

また、外国人でも給与が高い都会に行ってしまう。

自身が以前にこんな店ができたらいいなと思っていたものが今では、バイパスを中心に次々できていることから、地元への定着率が上がっていると思っていたがそうでもない様子。

不動産業者は治水事業に関連した開発規制により進出が難しい状況であるため、規制緩和により企業が進出しやすいようにしてはどうか。

(委員I)

- 求職者に向けての支援に力を入れていたが今は求人者支援を重点的に行っている。

学校からの応募がなく充足できていない状況である。

中小企業が行う魅力ある求人へのアピールに対し支援をしてはどうか。

ハローワークでは若者の採用や育成を支援するユースエール認定制度に取り組んでいる。

(委員J)

- 今は若い人が一つの企業に定着しない。前は一度就職したら定年までという意識があったが、転職のハードルが下がっていることが伺える。

初任給が上がっていることから、初任給を高く設定する、ワークライフバランスが実現できるなど条件が整っていないと人が来ないが中小企業には難しい。自治体でも定員割れが起きているような状況である。

工業団地ができると働く人が増えると思われる。若い人をつなぎとめることができればと思う。

(委員K)

- 観光業におけるマーケットの縮小と働き手の縮小、2つの課題に直面している。

ライドシェアの試験運用もやってもらったが、タクシー不足は致命的である。

おもてなしにあたり、地元食材が使われないなど、その土地のものを提供できない観光地としての魅力が減少する。

儲かる農業の課題として、第一次産業の働き手が高齢化している。従事者が増えてくれないと日本の食は危うくなる。

デジタルの活用により、楽しくて儲かる、楽しい、おしゃれ、中高年になっても働くことができるよう、農業は大変というイメージを変えることが必要。

また、北方町の話が出ていたが水害により荒地になったところも多く見受けられる。景観的に交流人口を呼ぶには印象が悪いため、荒地への対策も必要。

(委員D)

○西九州のハブ都市の推進とあるが、現在どのような取り組みがなされているのか。

⇒事務局)

令和4年に西九州新幹線が開業し、30分で長崎まで行けるようになり、武雄温泉駅から博多方面へは本数が2倍となった。武雄市に住みながら通勤通学ができるよう補助を行っている。

沿線市町や広域連携による観光事業の推進を行っている。

武雄温泉駅にも武雄市のものだけでなく、広域自治体の特産品やパンフレット等取り扱っており、武雄を中心に滞在してもらうよう工夫をしている。

[スター戦略 17 ページ]

(委員L)

●朝日町や武雄町など中心部は人口が増加しているが、周辺部では人口が減っている。中でも、若木小学校や西川登小学校では複式学級となった学級もある。はなまる等の取組みを近くで見してきたが、やはり学年ごとの学級で学ばせた方がよいと感じる。そういった意味で、周辺部の人口減少は子供の教育に影響を与えている。

若木町や武内町などの周辺部で宅地開発しやすい取組みがあれば、人口対策になるのではないか。

(委員M)

●みかんやシャインマスカットの栽培をしている。園芸作物でこどもたちが跡継ぎとして帰ってくることもあるが、米作ではなかなかそうはいかないのが現状である。農機具の購入に費用がかかり、儲かる農業にどのようにして取り組むかが重要。

7年前から武雄市最大の棚田である川内の棚田でオーナー制をしている。福岡など市外から参加いただいております、関係人口、交流人口の増につながっている。

農地が荒れてしまうと、元に戻すのは大変な作業となる。5～10年後、全て原野化してしまう前に対策を考える必要がある。

(委員N)

●3月に千葉から武内公民館の地域おこし協力隊として移住してきた。武内町では子供向けのイベントが多く、また、公民館では小中学生が過ごしている姿が見られる。

町内は子どもの数が少ないが、少ない分縦でも横でもつながりが強いと感じる。

地元への意識が強ければ、また戻ってきたいと思うのではないか。

赤穂山トンネルを越えた自然の景色に感動したという声も耳にする。

(委員C)

- 2年前に武雄市に移住してきて感じたことを述べたい。

武雄市は空き家が多い印象がある。空き家バンクに登録されていないが、外見から管理されておらず、空き家と推測する建物も見受けられる。

市で特定空き家として勧告している件数を把握し、地区や実数を住民に理解してもらうことで、地域の方は安心が生まれ、困りごとや相談をしやすくなるのではないかと。もちろん、個人情報との線引きは難しいと思われるが。

また、自身の経験から賃貸アパートと一軒家では、暮らしやすさの違いがある。賃貸アパートは敷地内が舗装整備されており、管理が容易で困りごとが少ないことから、単身世帯の増加との関連性があるのでは。一方で、一軒家では回覧板が回ってくるなど地域とのつながりを感じられる。回覧板はLINEでの連絡に置き換わる動きもあるが、長期的な人口減少問題を考えたとき、今後はこれを残し、地域のつながりをしがらみとにならないよう、面白い取組みが武雄市でできないか。ユニークなデザインを市報などに紹介し、市内で横断的に広報することで、地域の新たな繋がりに発展させてほしい。

また、工場などの業種への就職者の出身を聞くと、近隣に工業高校があることから周辺市町の方が多く感じる。そういった視点で分析してみてはどうか。

(委員B)

- 地元出身であるが、同級生はほとんど市外に出てしまっている。結婚率や出生率の低下に加え、今の若い人もいずれ年を取っていくことから、人口減少は一定程度避けられない。そういった意味で、今後は人口減少と高齢化が進むことを前提に対策を講じる必要がある。

人口対策は大きく二つに分けて考えられ、1つは、人口を減らさない、増やしていくために出生率の向上や移住対策に力を入れること。もう1つはこれから明らかに人口減少する社会を、どうすれば壊れないよう維持できるかに考えること。これは全国的に起こっている問題でもある。

文化のまちづくり構想や水害後の災害ボランティアを通して、武雄市や被災地を見てきたが、農業従事者や地域の森林を管理する担い手の減少問題は深刻な状況であると感じている。また、文化的な面からみても、子供の減少により伝承者が不足し、取りやめてしまった祭りもあり、その中には治水にちなんだ行事もあったと聞く。

武雄市の今後の事業の柱として治水、文化の2つを挙げられているが、人口をいかに「減らさない」ことに目配りした施策を進めていくのがいいのではないかと。思う。

外国人の受入れについては、今年7月の参議院選挙でもいろんな摩擦があった。人口減少問題とつなげて考えたときに、外国人の数を増やしていくだけでなく、外国人が安心できるまちとはどのようなものか、外国人観光客や武雄市に住む外国人に対してやさしいまちづくりを考えてほしい。

神戸では将来区の青年部として参加してもらい狙いから区のお祭りへの声掛けや回覧板の回し方を説明するなどの取組みをしている。言葉を翻訳するツールは多数ある。言葉のコミュニケーションは問題ないと考えている。

(委員J)

- 外国人の方との交流の場を増やせないか。地域のお祭りに誘ってもなかなか参加しづらい様子。小さな交流から始めて、挨拶だけでない関係性を築くことが出来たら良いなと思う。

(委員H)

- 高校生に地元への就職を進めるが、あまり反応が良くないという声がある。一方で、就職で市外転出したが、就職先でなじみず戻ってくる方もいて、そういった方を狙って採用したい企業もある。いわゆる U ターン就職を目指す方を対象とした優遇策を講じてはどうか。

(委員D)

- 人口減少している中で、唯一増えているのが外国人である。外国人が定住し、市民とともに色々な活動ができる地域コミュニティの形成は、市としても全国的に見ても目指すべき方向性だと感じている。

(委員O)

- 商工会青年部で 20 歳～40 歳前半の方と一緒に活動しており、若手が企業に入っていないという問題を共有している。

武雄市への移住に関して、現在市外に在住されている方の話を紹介したい。出身も勤務地も武雄市であり移住して帰りたいが、こどもの医療費など行政サービスで現在住んでいる自治体の方が優遇されており、武雄に戻りたくても戻れないということである。武雄市は良いまちであるが、人を惹きつけられるようなことがあった政策があれば面白いのではないかと思う。

外国人就労の課題も挙げたい。日本語学校に通った後に就職を目指されたが、相談先や友達が少なく、就労に関する情報をあまり得られなかった。就職したとしてもアルバイトに近い業務が多く、就労で困っている外国人に目を向けてもらいたい。

【会議後にいただいた意見と質問】

(委員A)

- 魅力的な企業があれば移住につながる。住み心地がよければ定住につながる。武雄は自然・伝統・温泉・焼き物・野菜など魅力が多く、住民も温かい。こうした魅力をさらに発信・掘り起こして、移住・定住促進につなげる。
- ほんわカーは便利だが、日常の足としては時間や停留所の不便さがあり不足している。ドアトゥードアの移動手段を実現するために事業者支援・予算立てが必要。乗り合い・ライドシェアなどの新しい仕組みを検討すべき。
- 高齢者にはスマホ予約や「たけおPay」の利用が難しく、浸透しにくい。高齢者にも使いやすい仕組みや丁寧な発信方法を工夫する必要がある。
- タクシーがつかまりにくく、夜は営業していないのが大きな問題。観光地でのタクシー不足は致命的。観光周遊バス「たけめぐり」を駅・宿泊施設などでの案内により更なるPRを図ること。タクシー・公共交通を含めた観光の移動手段を強化する。
- 外に出て初めて地元の魅力に気づくことがある。「地域の魅力の再認識・再発見」を積極的に発信し、Uターンや移住のきっかけをつくる。

○日曜日限定で運行している「たけめぐり」をどれだけの人が利用されているのか。

⇒担当課確認)

1日2便運行しており、令和6年度における1台当たりの平均乗車数は4.8人。

○定員20人に達した時には乗車できない事があるようだが、そういったことは実際にどれだけあるのか。

⇒担当課確認)

運送会社からの報告によると、R4に運行を開始して以降、乗車できなかった事例はない。

(委員P)

●人口減少は全国的な課題であり、同じ国内での取り合いのような状況が続いている。他自治体で成功した事例が必ずしも武雄に通用するとは限らないため、「自分たちがこの武雄で楽しんでいるかどうか」という視点を大切にしたい。面白いことは自然に伝染し、「なんだかこの町は楽しそうだ」と感じた人々が集まってくるのではないかと。そのための具体的な仕組みとして、市民全員が何らかの形で参加できる100のサークルを立ち上げ、それぞれにグループチャットを設けると同時に、サークル横断の交流の場も用意する。さらに、たけおPayポイント付与と連携して、スポーツ、芸術、文化、歴史、飲食、街歩き、散策などの各カテゴリーで定期的にイベントを開催する。これらの活動を一元的に紹介・支援するために「武雄サークルサービスサイト」を立ち上げ、

「楽しんだもん勝ち！」を合言葉に、住民が生涯にわたり楽しめるまちづくりを進めていくのはどうか。

5 その他

- ・ 次回開催予定 日時：令和7年9月26日（金） 13時30分～
場所：武雄市役所 4階災害対策本部室

6 閉会